

オブジェクト指向と ゲームプログラミング

フレームワーク編 - 第6回 ウィンドウとフルスクリーンの切替

課 題

たいていのゲームでは、ウィンドウモードとフルスクリーンモードというモードがあり、いつでも切り替えることができるようになっていきます。

ウィンドウモードとは、通常のアプリケーションのように、ウィンドウの中だけで描画を行うものです。これに対し、フルスクリーンモードとは、画面全体を占有し、ほかのアプリケーションには一切描画をさせないというものです。

Alt+Enterキーを押したら、ウィンドウモードとフルスクリーンモードを切り替えられるようにしましょう。

(1)アプリケーションがどのモードで動作しているかを示す変数を作成します。以下のプログラムを適切な場所に追加しましょう。

```
bool m_Windowed; // ウィンドウモードフラグ(true...ウィンドウモード / false...フルスクリーンモード)
```

この変数は、ウィンドウモードかどうかを示すフラグです。フラグがtrueならウィンドウモード、falseならフルスクリーンモードで動作していることを示します。

(2)(1)を追加したクラスのコンストラクタ初期化子に、以下のプログラムを追加し、オブジェクト構築時にm_Windowedが適切に初期化されるようにしましょう。

```
m_Windowed(false)
```

(3)ウィンドウをモードに合わせたものに調整する関数を作成します。

ウィンドウの形状、サイズ、位置をモードに合わせて調整するAdjust関数を作成します。Adjust関数はウィンドウモードなら一般的なアプリケーションのようなウィンドウを、フルスクリーンモードなら画面全体を覆う枠のないウィンドウに調整します。ウィンドウモードかどうかは引数で指定します。

以下のプログラムの足りない部分を補い、適切な場所に追加しましょう。なお、ウィンドウは画面中央に表示されるようにしましょう。

```
/*
 *                               ウィンドウ調整
 */
bool ??????????::Adjust(const bool inWindowed)
{
#ifdef _DEBUG
    if(m_hWnd == NULL) {
        ::OutputDebugString("*** Error - ウィンドウ未初期化(CGameWndFrame_Adjust)¥n");
        return false;
    }
#endif

// ディスプレイサイズ取得
const int SCREEN_WIDTH = ::GetSystemMetrics(SM_????????);
const int SCREEN_HEIGHT = ::GetSystemMetrics(SM_????????);

DWORD style_ex = 0, style = 0;
RECT wnd_rect;

if( ここは各自考えましょう) {
    // ウィンドウモード
    style = WS_POPUPWINDOW | WS_CAPTION | WS_MINIMIZEBOX;
    ::SetRect(&wnd_rect, 0, 0, 640, 480);

    // マウスカーソル表示
    while(????????(TRUE) < 0)
        ;
}
```

```

    } else {
        // フルスクリーンモード
#ifdef NDEBUG
        style_ex = WS_EX_TOPMOST;
#endif
        style = WS_POPUP | WS_SYSMENU;
        ::SetRect(&wnd_rect, 0, 0, SCREEN_WIDTH, SCREEN_HEIGHT);

        // マウスカーソル消去
        while(::?????????(FALSE) >= 0)
            ;
    }

    // ウィンドウスタイル設定
    ::SetWindowLong(m_hWnd, GWL_EXSTYLE, style_ex); // 拡張スタイル変更
    ::SetWindowLong(m_hWnd, GWL_STYLE, style); // スタイル変更

    // ウィンドウサイズ設定
    ::AdjustWindowRectEx(&wnd_rect, style, FALSE, style_ex);
    const long WND_WIDTH = wnd_rect.right - wnd_rect.left; // ウィンドウ幅
    const long WND_HEIGHT = wnd_rect.bottom - wnd_rect.top; // ウィンドウ高さ

    // ウィンドウ位置設定(画面の中央に設定)
    const int POS_X = ここは各自考えましょう; // ウィンドウx座標
    const int POS_Y = ここは各自考えましょう; // ウィンドウy座標

    // ウィンドウ変更
    ::SetWindowPos(m_hWnd, HWND_TOP, POS_X, POS_Y, WND_WIDTH, WND_HEIGHT,
        SWP_FRAMECHANGED | SWP_DRAWFRAME | SWP_SHOWWINDOW);

    // オーナーウィンドウ再描画
    HWND hOwnerWnd = ::GetWindow(m_hWnd, GW_OWNER);
    ::InvalidateRect(hOwnerWnd, NULL, TRUE);
    ::UpdateWindow(hOwnerWnd);

    return true;
}

```

「オーナーウィンドウ再描画」は、フルスクリーンモードからウィンドウモードに切り替えたときに必要になります。この処理がない場合、一部のウィンドウの再描画処理が正しく行われません。

(4)ウィンドウをモードに合わせて生成するようにします。

CGameWndFrame::Create関数にウィンドウモードで生成するのかわを示す引数を追加します。この引数がtrueならウィンドウモード用のウィンドウを、falseならフルスクリーンモード用のウィンドウを生成します。

CGameWndFrame::Create関数のプロトタイプを以下のように変更しましょう。

```
bool Create(const HINSTANCE hInstance, const WNDPROC inWndProc, const bool inWindowed);
```

(5)CGameWndFrame::Create関数をAdjust関数を用いてモードに合わせたウィンドウを生成するように変更します。足りない部分を補い、プログラムを完成させましょう。

```
bool ??????????????::Create(const HINSTANCE hInstance, const WNDPROC inWndProc, const bool inWindowed)
{
    Destroy();

    LPCTSTR WindowClassName = "OOGAMEPROG_WINDOWCLASS"; // ウィンドウクラス名

    WNDCLASSEX wcx;
    // ウィンドウクラスが登録済みか調べる
    if(::GetClassInfoEx(hInstance, WindowClassName, &wcx) == 0) {
        // ウィンドウクラス登録
        ::ZeroMemory(&wcx, sizeof(wcx));
        wcx.?????? = sizeof(wcx);
        wcx.style = 0;
        wcx.?????????? = inWndProc;
        wcx.cbClsExtra = 0;
        wcx.cbWndExtra = 0;
    }
}

```

```

    wxc.????????? = hInstance;
    wxc.hIcon      = ::LoadIcon(NULL, IDI_APPLICATION);
    wxc.hCursor    = ::LoadCursor(NULL, IDC_ARROW);
    wxc.hbrBackground = (HBRUSH)::GetStockObject(BLACK_BRUSH);
    wxc.lpszClassName = WindowClassName;
    wxc.lpszMenuName = NULL;
    wxc.hIconSm     = NULL;

    if(::????????????????(&wxc) == 0) {
        ::OutputDebugString("*** Error - ウィンドウ登録失敗(CGameWndFrame_Create)¥n");
        return false;
    }
}

// ウィンドウ生成
m_hWnd = ::????????????????(0, WindowClassName, CGameApp::APP_NAME, 0,
                             0, 0, 0, 0, NULL, NULL, hInstance, NULL);

if(m_hWnd == NULL) {
    ::OutputDebugString("*** Error - ウィンドウ生成失敗(CGameWndFrame_Create)¥n");
    return false;
}

Adjust(inWindowed);           // ウィンドウ調整
::????????????(m_hWnd, SW_SHOW); // ウィンドウ表示
::SetFocus(m_hWnd);          // フォーカス設定

// IME消去
HWND hIMEWnd = ::ImmGetDefaultIMEWnd(m_hWnd);
::SendMessage(hIMEWnd, WM_IME_CONTROL, IMC_CLOSESTATUSWINDOW, 0);

return true;
}

```

(6)アプリケーションの初期化時に、ウィンドウモードかどうかを指定するようにします。CGameApp::Initialize関数のプロトタイプを以下のように変更しましょう。

```
bool Initialize(const HINSTANCE hInstance, const bool inWindowed);
```

(7)ウィンドウを生成する部分を以下のように変更しましょう。

```
// ウィンドウフレーム生成
if(m_Frame.Create(hInstance, WndProc, inWindowed) == false)
    return false;
```

(8)CGameApp::Initialize関数に渡されたinWindowedを保存するようにします。以下のプログラムをGameApp::Initialize関数の適切な場所に追加しましょう。

```
m_Windowed = inWindowed; // フラグ保存
```

(9)アプリケーションの初期化部分を以下のように変更し、フルスクリーンモード用のウィンドウになるかを確認しましょう。

```
// アプリケーション初期化
if(App.Initialize(hInstance, false) == false)
    return -1;
```

(10)アプリケーションの初期化部分を以下のように変更し、ウィンドウモード用のウィンドウになるかを確認しましょう。

```
// アプリケーション初期化
if(App.Initialize(hInstance, true) == false)
    return -1;
```

